

払戸小学校有終の美を飾る3つの大作戦

教えて先輩大作戦第1弾 笹切りアート

「払戸小学校有終の美を飾る3つの大作戦」の中の「教えて先輩大作戦第1弾」である加藤吉雄様による「笹切りアート」の様子を紹介します。



上の写真と記事は、令和5年6月12日のさきがけ新聞に掲載されたものです。払戸在住の加藤吉雄様による「笹切り」の作品展に関する記事です。

【記事の内容の一部】

すしの盛り付けや刺し身の飾りに使われる緑色の「バラン」を繊細に切り抜く工芸「笹切り」の作品展が、秋田市山王の県生涯学習センターで開かれている。秋田県鹿市払戸の加藤吉雄さん（68）が作った作品約60点を展示している。28日まで。主に動物や浮世絵などを題材とした作品が並ぶ。マンモスやクマは鋭い顔つきや毛並みが巧みに描かれ、存在感を放つ。コイのうろこや口元を細かく再現した作品も目を引く。ほかに七福神や千手観音、金剛力士像、秋田市の竿燈まつりに出演する各町内の町紋をまとめた作品もある。

この記事を知り令和5年度末に「教えて先輩大作戦」の講師について加藤吉雄様に依頼したところ、快く引き受けてくださり令和6年7月19日に実施することとなりました。



会場は図工室。1・2校時は1・2年生、3・4校時は3・4年生、5・6校時は5・6年生が教えてもらいました。



まずは1・2年生が作品を鑑賞。お気に入りの作品を各自が指さしています。



作品づくりに挑戦。1・2年生はカッターを使わずハサミを使います。うまく切り抜くことができるかな？



難しいところは「お願いします」と加藤様に手伝ってもらいました。



全員自分の作品を完成させ紹介しました。



さきがけ新聞が1・2年生の様子を取材に来ていたので、学習終了後にインタビューを受けました。



次は3・4年生です。3・4年生には、ABSとAABが取材に来ました。事前取材の様子です。



3・4年生の授業がスタート。お題の一部を紹介しています。本格的な作品に挑戦することになりました。



3・4年生は細かな切り抜きができるように、ハサミではなくカッターを使いました。



慣れない笹切りと慣れないテレビカメラの前で、3・4年生は悪戦苦闘。



グループごとに頑張って完成させた作品を披露。みんな上手。



3・4年生が制作中、加藤様もクマの親子の作品を仕上げました。この作品は加藤様が学校に寄贈してくださいました。



最後は5・6年生。笹切りのエビでつくった漢字の読み方を尋ねたところ、5・6年生は「令和」と答えていました。



5・6年生のお題は高難度。切り抜く部分が細かいし、しかもたくさんあります。



中には魚拓のような複雑な作品に挑戦する児童もいました。



6年生の作品の例です。切り抜く部分がたくさんあってかなりの力作となりました。



5年生の作品の例です。こちらも力作です。



5・6年生の制作中、加藤様は夫婦キジの作品を仕上げました。あまりの細かさにみんな声も出ませんでした。

今回の「教えて先輩大作戦」の講師を引き受けてくださった加藤吉雄様、本当にありがとうございました。加藤様は制作前に「趣味をもつことの大切さ」を見童に伝えてくださいました。見童たちは弘戸地区に笹切りという趣味を通して作品展を開催するようすごい先輩がいることを知ったと思います。このことで自分たちの住む弘戸地区に誇りをもってくれることを期待しています。

また、今回の取組を取材してくださった、秋田魁新報社、秋田放送、秋田朝日放送の皆様、ありがとうございました。お陰様で有終の美を飾る本校の取組を広く発信することができました。

今後も「弘戸小学校有終の美を飾る3つの大作戦」を続け、最後の一日まで充実したものとなるよう努力することを肝に銘じ、紙面を借りてお礼に代えさせていただきます。